

Benesse
Art Site
Naoshima

Benesse Art Site Naoshima Learning & Practice

コンセプトブック

知識ではなく考える学び

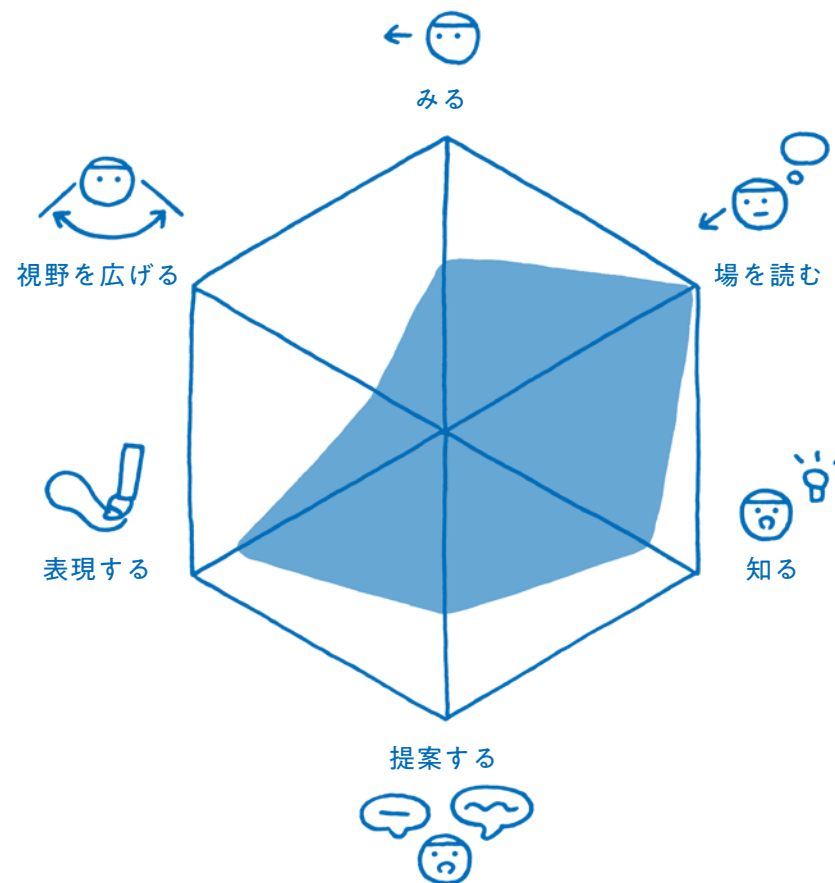
ベネッセアートサイト直島 (BASN) では、鑑賞者が自分にとっての「Benesse=よく生きる」に気づいたり、実現へのヒントを得たりすることを目指し、教育・研修プログラムの設計・提供を行っています。

対象は幼児からシニアまで幅広く、案件ごとに属性と目的に応じてプログラム内容をオーダーメイドしています。このプログラムでは、情報をインプットする学びではなく、自分なりの考えをつくり表現する学びを提供しています。



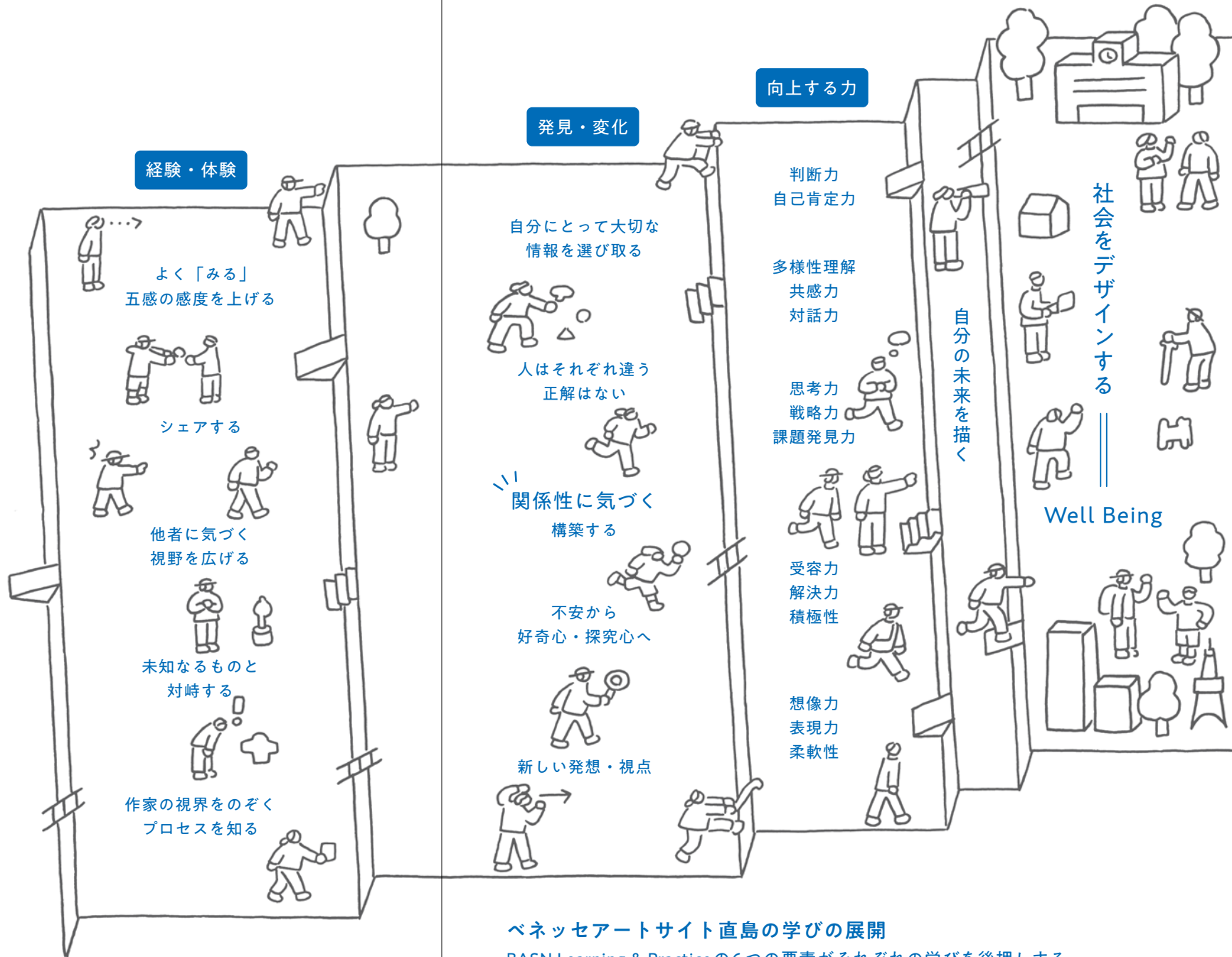
正解のないミッション

プログラムを設計する際は、スケジュール・対象・目的に応じて、6つの要素を組み合わせてストーリーをつくります。6つの要素に共通しているのは、既に用意されている正解を学ぶのではなく、自分なりの答えをつくる、ということです。



生きる力を身に付ける

鑑賞者はさまざまなアート体験を通じて、「生きる力」を身に付けていくことができます。ベネッセアートサイト直島(BASN)のプログラムでは、作品が周囲の環境や島の歴史・文化・営みと関わりあっているものも多いため、作品鑑賞を通じて気づく要素が多いことが特徴です。そのため、日常や社会について思考を広げ、つなげていくことができます。このような経験や、正解のない問いに対して自分なりに考え表現する力の養成は、年代に関わらずニーズがあります。BASN Learning & Practiceはそれに応える手法の一つでもあるのです。

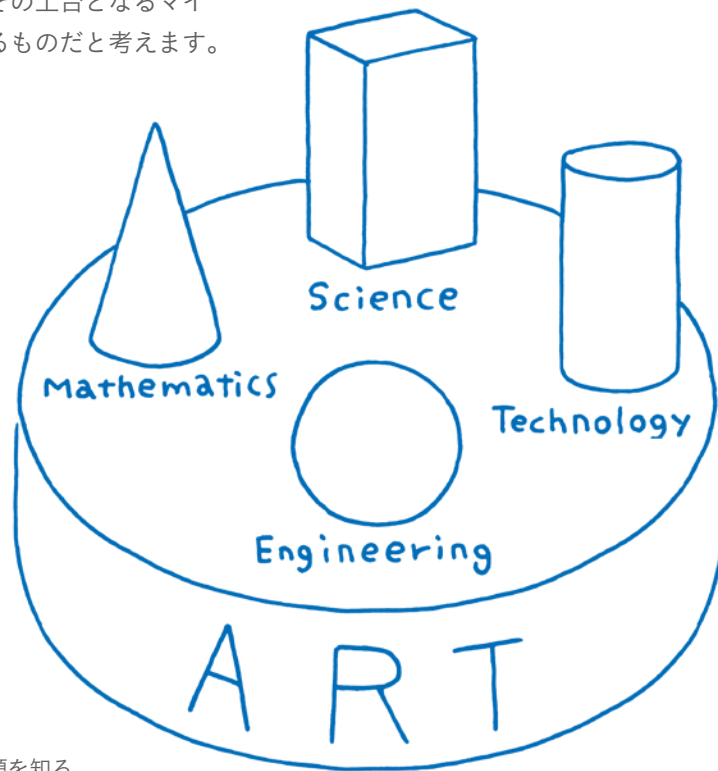


ベネッセアートサイト直島の学びの展開

BASN Learning & Practiceの6つの要素がそれぞれの学びを後押しする

アートが学ぶ意欲をつくる

学びは、環境提供だけでなく、本人の学ぶことへのモチベーションの醸成が重要です。これから期待されていく横断的な学びにおいては、アートは他の分野と掛け合わせる1つのジャンルというだけでなく、学ぶモチベーションやその土台となるマインドを身に付けるものだと考えます。



アートの役割

- 自分の関心、課題を知る
- 主体的に学ぶ姿勢をつくる、必要なテーマを選び取り能動的に学ぶ
- 異なる分野をつなげて考える力を養い、日常や仕事との関連性を見つけられるようになる



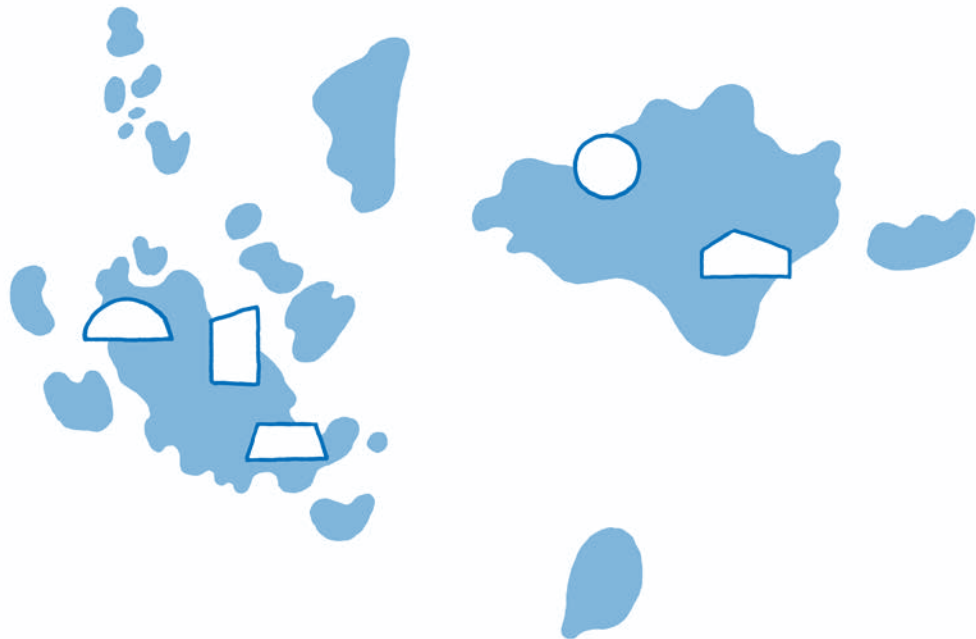
Benesse Art Site Naoshima
対話型鑑賞

「みる」ことから自分に出会う

BASN Learning & Practiceのプログラム設計では、「みる」の要素にある対話型鑑賞を大事にしています。

「みる」力を身に付けることで、作品だけでなく、視界に入るものへの意識が向上します。その結果、自分が気になるものを捉え、よく観察し、そこから深く考えたり、新しいアイデアのタネを見つけたりすることができます。

「みる」学びをベースにして他の5つの要素のコンテンツ（p.3の6つの要素参照）と組み合わせることで、さらに吸収できるものが増え、表現の幅が広がるなど、プログラム全体の効果を最大化できると考えています。



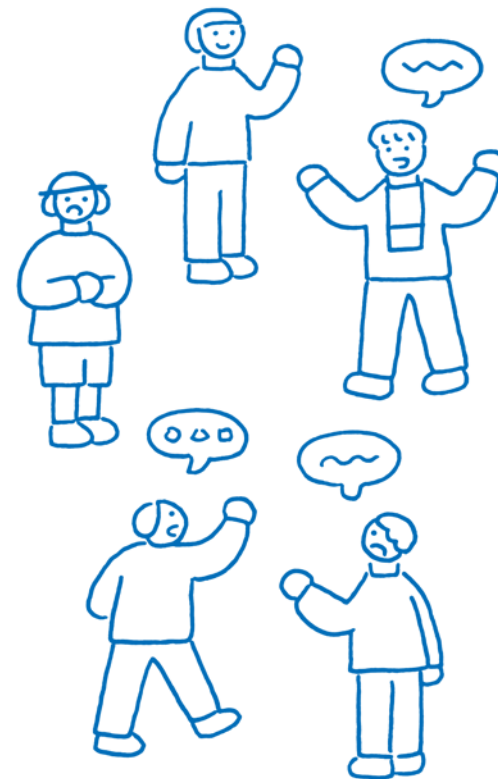
価値観をシャープにする

ベネッセアートサイト直島（BASN）で実践している「BASN対話型鑑賞」は、BASNが目指す「鑑賞者が自分の『Benesse=よく生きる』について気づき考える」体験をサポートするため、一般的な対話型鑑賞を参考にしながら、本来の自分を知り、受容することを主な目的として独自にメソッド化したものです。

作品鑑賞をきっかけに自分の着眼点や見方を意識し価値観をシャープにします。ファシリテーターの問いかけによって、主観を表現することや他者の意見から相対的に自分の考えを認識できるようになり、自分らしさに出会えます。

また、BASNの対話型鑑賞では解釈に優劣はないため、気づいた「自分」を肯定的に受け止めることができ、自己肯定感が高まります。

※対話型鑑賞は、1980年代後半にニューヨーク近代美術館（MoMA）で開発された子ども向けの鑑賞メソッドVTS（Visual Thinking Strategies）を源流とし、作品鑑賞を通じて「観察力」「批判的思考力」「コミュニケーション力」が育まれるとされています。



ファシリテーションでも 「よく生きる」

BASN対話型鑑賞のファシリテーションは、鑑賞者の「Beness=よく生きる」のイメージを具体化するため、個人の価値観・コンディション・潜在的な関心事・大切にしていることなどに気づくプロセスを重視しています。そのため、鑑賞者の意見を掘り下げていくプロセスと問いかけのメソッドが特徴です。

BASN対話型鑑賞の活用シーンは、美術の分野だけにとどまりません。それは、「生きる力」(自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する力)を身に付けたいという日常の場面が主になります。



例えば、介護、障がい者支援、教育関係者、企業など、様々なフィールドで、BASN対話型鑑賞のファシリテーター認定者の活躍が広がっています。

BASN対話型鑑賞のファシリテーター認定プログラムはどなたでも参加可能で、受注ベースで1グループ4名まで2日間で実施しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。



事例レポート & お問い合わせ

プログラムは案件に応じてオーダーメイドでご提案いたします。BASN対話型鑑賞ファシリテーター認定プログラムについてもお気軽にご相談ください。



事例レポート



お問い合わせ



Benesse Art Site Naoshima Learning & Practice コンセプトブック

2026年7月1日初版第一刷

企画・執筆	藤原綾乃（公益財団法人 福武財団）
アートディレクション	細山田光宣
デザイン	クイケンステラ（細山田デザイン事務所）
編集	佐々木一成、今田浩明（有限会社モッシュブックス）
イラスト	米村知倫
印刷製本	株式会社協同プレス
発行	公益財団法人 福武財団 株式会社ベネッセコーポレーション